

# 徳島大学における「大学入門講座・読書レポート 2014」の試み： 読書からアカデミック・ライティングへ

古屋 玲<sup>1)</sup> 齊藤 隆仁<sup>2)</sup> 井戸 慶治<sup>2)</sup> 宮崎 隆義<sup>2)</sup> 饗場 和彦<sup>2)</sup>  
三好 徳和<sup>2)</sup> 荒木 秀夫<sup>2)</sup> 日野出 大輔<sup>3)</sup> 吉本 勝彦<sup>3)</sup> 佐々木 奈三江<sup>4)</sup>

1) 徳島大学全学共通教育センター

2) 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

3) 徳島大学大学院ヘルス・バイオ・サイエンス研究部

4) 徳島大学附属図書館

高校までの学びと大学での学びの本質的なちがいは何であろうか？ 高校までの学習では、常に課題が教員から生徒へ与えられる。これに対して大学においては、課題でさえも学生自ら探ることが求められる。一方、どの学部や学科へ進学しても、1年生の段階から専門分野の基礎知識を身につけ始めることも求められる。つまり、新入生にとって「自ら学ぶ世界」への第一歩を如何に踏み出すかが入学直後の大きなテーマとなる。したがって、「自ら問いを探し、解決し、まとめあげる」技能を身につけることが必要である」と入学直後から学生に認識させる必要がある。然るべき方法論に則った指導を受け、適切なトレーニングを繰り返せば、すべての学生がこの技能を身につけることができるはずである。

その第一歩が一冊の本を読み通すことであると我々は考えた。それにより学生は多様な観点と複数の答えがあることを理解するはずと考えられる。このような思考過程とその表現は、大学においては学術的な作法に則り、具体化せねばならない。そのため次の2点を目標として設定した。

- (1) 学術的な文章の書き方(アカデミック・ライティング)が存在することを新入生に伝えること。
- (2) アカデミック・ライティングを技能として習得するきっかけをつくること。

これらの狙いを設定することにより、「読書レポート」を試行的に導入した2013年度と比較すると、今年度は「読書からアカデミック・ライティング」へ明確にシフトすることとなった。

今年度は、総合科学部と歯学部において「大学入門講座」に読書レポートを組み込むかたちで実施した。どちらの学部においても4月中旬までに、感想文と意見文の違い、論理的な文章とはどのようなものかなど、アカデミック・ライティングの考え方を示し、技能としてそれをどのように習得すべきかの授業を行った。この際、歯学部では事前に提出させた小レポートを教員が添削し、授業中にコメントしながら、論理的な文章の書き方を実践的に指導した(図1)。これを踏まえ、昨年と同様に5月中旬に「読書レポート」を提出させた。今年度は歯学部では5点の課題図書を指定、総合科学部では180余点の推薦図書(新書に限定)を指定した。これは自由に書物を選ばせた昨年との大きな変更点である。提出された「読書レポート」に対して、複数の教員が(i)文章に関するコメント、および(ii)内容に関するコメントを作成し、両学部ともに7月に一斉返却とアンケート記入(歯学部)および講評の授業(総合科学部)を行った。

図1に歯学部において4月下旬に実施した事前指導におけるスライドの一部を示す。事

前指導の名称ではあるものの、事実上、第一回目の添削指導であった。「学術的な文章とは何か」、「レポートの構成はどうあるべきか」を図1の1,2番(上段左および中央パネル)のパネルのように示したことから指導を始めたが、実際には図1の3,4番のパネルのように口語と書き言葉の区別ができていない学生が圧倒的多数であった。引き続き、論理の転換点を示す言葉(図1の5番パネル;中段中央)を各自の事前レポートのなかから拾い上げさせ、パラグラフ別け(図1の6番パネル)、分割したパラグラフやレポート全体にタイトルを付ける(図1の7,8番パネル)などを具体的に指導した。しかしながら、1回限りの指

導には限界があることは明らかであり、図1の9番パネルに示すような論理的な書き方を会得するうえで必要な概念を具体例を挙げながら、繰り返し、網羅的に指導してゆく必要がある。その目的を達成するためには、初年次におけるライティング教育の開始から卒業論文等の指導に至るまで、「一貫してどのように指導するか」を全学的に議論する必要がある。

講演では、2013年度「読書レポート」の最終的な分析、それを踏まえて2014年度に新たに行った試みおよびそれらに対する教員と学生からの評価を附属図書館の利用状況の分析とあわせて報告する。

**1 レポートと感想文の違い**

「事実」とは  
\*客観的な証拠を挙げて裏付けできるもの

「意見」とは

**2 レポートの基本構成**

要旨 課題の設定  
課題の具体化  
§1. イントロダクション 一掃くべき問題の明確化  
§2. 観測、調査、実験あるいは計算 問題を解く  
§3. 結果 結果を述べる  
§4. 考察 結果の解釈  
§5. まとめあるいは結論 まとめを述べる  
引用文献

**3 学術的な文章では絶対に使わない口語**

そういう患者  
いいなあ  
驚きました/驚いたことは  
と感じらえる。  
思っていますし/思っています/思う  
だと思えば  
自分たちも/自分の  
正しいがなんて/〇〇なんて  
ぼくは  
そういうわけで  
したいです。  
びっくりしました。  
間違っている。  
ちゃんど

**4 「と思う」は必要か? 「と思う」の意味を考えよ**

AはBである と思う。

I think that A is B.

**5 論理の転換点や展開を示す語: 読みやすい文章のために**

しかし、  
そして、  
なぜなら、  
また、  
したがって、  
そして、  
これらのことをふまえると  
以上のことから、  
...、だが、

ようて  
そのためには  
次に  
そこで  
...、だから  
ですが、  
その点でも、  
なのに、  
そうすると、  
けれど

以上はすべて今回のレポートに見られたものです。  
各自のレポートで該当する語を探し  で囲んでみよう。

**6 論理の転換点や展開を示す語: 読みやすい文章のために**

以上はすべて今回のレポートに見られたものです。  
各自のレポートで該当する語を探し  で囲んでみよう。

ひとつのパラグラフに  は何個見つかったか?

今回のレポートには書かれていない人からゼロの人までいました!

ひとつのパラグラフに  が3~5個も見つかったら、  
そのパラグラフは分割せよ。

**7 転換点や展開を示す語と段落: 読みやすい文章構成へ**

ひとつのパラグラフに  が3~5個も見つかったら、  
そのパラグラフは分割せよ。

作業: 分割したパラグラフにタイトルをつけよう。  
tips: まずはキーワードでもよい  
この作業はレポートを構成する(subsectionに  
タイトルを付ける作業でもある。

**8 段落別の論理展開を制御する: 読みやすい全体構成へ**

作業: レポート全体にタイトルをつけよう。  
tips: あなたがそのレポートで「言いたいこと」  
を端的に表す語群を選択する

「〇〇について」は何も書けていないには注意!

※「あのしっぽについて」  
○「バインマンの顔色とどんちゃんんの心理状態の相関関係の発見と物理学的説明」

**9 関係書きの前には“前置”、後には“まとめ”が必要**

論理的観念  
第一に、  
第二に、  
第三に、  
...、  
最後に、  
具体化

概念的観念  
以上をCOIで整理する  
...、  
一般化

※「前置”and/or”まとめがあるか?  
※そもそも「第一に」「まず最初に」だけで第二も記されていない?   
各自のレポートを点検してみよう。

図1 2014年度「大学入門講座・読書レポート」における事前ライティング指導における配布物から一部を抜粋